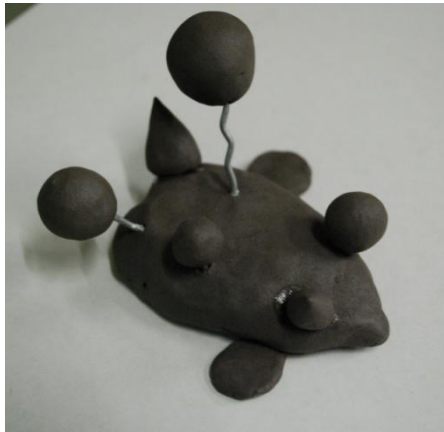


# 平成 26 年度 市教研造形部会 美術科学習指導案



日時	平成 26 年 6 月 17 日 (火) 14 : 00 ~ 14 : 50 授業 15 : 05 ~ 16 : 30 協議会・諸連絡
会場	千葉市立幕張中学校 美術室 (授業・協議会)
内容	(1) 研究主題 「感じ取り表現する力を育てるための指導の工夫」 (2) 授業者 森田 卓司 教諭 (3) 展開学級 第 1 学年 4 組 (4) 題材名 『 抽象のかたち 』

# 美術科学習指導案

展開学級 1年4組  
場 所 美術室  
授 業 者 森田卓司

## 1 題材名 「 抽象のかたち 」 (6時間)

### 2 題材について

中学校に入学し、初めて美術の学習に取り組む1年生にとって、始めに基礎的な資質や能力を身につけることは今後の学習活動にとって大切なことである。できるだけ早い時期にかたちや、材料などの性質やそれらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力を伸ばしたいと考えこの題材を設定した。この題材の主なねらいは①「抽象表現をとおして、かたちのもたらす感情や印象を感じる力を育むこと」②「対象をよく観察して明暗の表現に気付き、表わそうとすること」③「粘土や鉛筆による表現活動を体験して、これらの材料に親しむこと」である。

学習の前半は粘土による立体作品づくりを通して、抽象表現に対する理解を深めるとともに、かたちや質感といった基礎的な造形要素から感情や印象を感じ取る感性を育みたい。

後半は粘土で作成した作品を鉛筆で描いていく。この過程での大きな目的は、絵画における明暗表現の学習にある。美術の表現における基礎的な技能は多くあるが、明暗の描写によるものの立体感の表現について学ぶことは、今後の絵画表現の幅を広げていく上で非常に大切である。しかし、中学生の多くが鉛筆で絵を描くときに、ものの輪郭以外を意識していることは少ない。例えばみかんを描いたときに、生徒はできるだけ対象に忠実にかたちを描こうとする。そこまではよいが、そこに色をつけようとすると全て同じオレンジ色で塗りつぶしてしまうことが多い。もしくは表面の小さな斑点を細かく描いて満足してしまう。これは「みかん」＝「オレンジ色」という概念で対象を見つめてしまうことによって、実際に見えているはずのオレンジのなかの微妙な陰や光の反射が見えなくなってしまうことで起こる。この題材では白いピンポン球を鉛筆で描画し、明暗の表現を練習してから制作を始める。真っ白なボールを描くことを通して、白いと思っていたものが実際は真っ白には見えていないことに気づき、対象を冷静に見つめることができる視点を養いたい。中学生の前半である1年生の時期に対象を冷静な目で観察し、明暗をとらえて描く基礎的な技能を身につけていけば、2年生以降の表現活動でも、更に豊かな表現力を培うことができるだろう。また、鉛筆や粘土といった様々な材料について親しみ、それぞれの特徴や表現の違いを感じ、より深い表現を目指して欲しいという願いを込めて本題材を設定した。

### 3 生徒の実態 (1年4組 男子16名 女子17名 計33名)

1年4組は全体的に活発な生徒が多く、美術の学習にも熱心に取り組もうという生徒が多い。しかし、4月に実施したアンケートの結果を見ると、約1/3の生徒が絵を描くことに対して「嫌い」と答えている。一方で、33人中32人の生徒が上手に描けるようになりたいという願望をもっている。上手に描きたいけれど思うようにできないジレンマが、絵を描くことに対するマイナスイメージへとつながっていると考えられる。この題材では鉛筆を使って対象のかたちをとらえ、明暗をとらえていくというスケッチの基礎的な技能を、やや専門的に学習していく。絵を描く方法を学ぶことで、描くことに対する苦

手意識を改善させたい。また、鉛筆で描いたり粘土でつくる経験は4～6回が最も多い。想定していたよりもたくさんの活動経験があるが、鉛筆の使い方や種類・粘土の扱い方についても学習し、より親しんで制作活動に取り組んでいけるよう指導したい。中学1年生にとって抽象という言葉自体聞いたことがない生徒も多い。生徒にとって馴染みが無く、難しい題材である。しかし、アンケート8の結果を見ると、抽象表現自体を素直に「よい」と感じる生徒も意外と多いことが分かった。今回、生徒には抽象という概念を「具体的にはっきりナニとは言えないもの」「思いやイメージをオリジナルのかたちで表現したもの」といった、できるだけ平易な表現で受け止めさせた。今回の学習を通して、抽象的なイメージの感じ取り方に興味を持ち、様々なかたちで表現する力を育てていきたい。

### アンケートの結果

1. 絵を描くことは好きですか？			
とても好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	とても嫌い
11	12	8	2
2. 粘土で作品をつくることは好きですか？			
とても好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	とても嫌い
10	15	8	0
3. 絵を上手に描けるようになりたいと思いますか？			
とても思う	少し思う	あまり思わない	まったく思わない
25	7	1	0
4. 図工の授業で、鉛筆だけで絵を描いたことは何回くらいありますか？			
1～3回	4～6回	7～9回	10回以上
11	13	0	8
5. 図工の授業で、粘土の作品をつくったことは何回くらいありますか？			
1～3回	4～6回	7～9回	10回以上
17	19	1	0
6. 抽象（ちゅうしょう）という言葉聞いたことがありますか？			
聞いたことがある	聞いたことがない		
10	23		
7. 抽象（ちゅうしょう）という言葉の意味を説明できますか？			
できる	何となくできる	できない	
0	1	32	
8. これらの絵では、どの作品が好きですか？			
①フェルメール	②ゴッホ	③モンドリアン	④カンディンスキー
1	13	9	9

#### 4 単元の目標

・抽象表現について関心を持ち、創造の喜びを感じながら表現活動に取り組むことができる。	【関心・意欲・態度】
・テーマに合った抽象的なかたちを考えることができる。 ・制作の過程において構想を深め、よりよい表現を生み出そうとする。	【発想・構想】
・対象の明るさをとらえて、明暗の階調を表現しようとする。 ・対象をよく観察し、よりよく表現しようとする。	【創造的な技能】
・かたちの持つ感情や印象を、豊かに感じ取ろうとする。 ・感じ取った作品のよさや印象を言葉で表現することができる。	【鑑賞の能力】

#### 5 単元の指導計画

抽象表現について知る・テーマを決める	(1時間)	
粘土で抽象作品をつくる	(1時間)	
鉛筆の使い方・ピンポン球を使った明暗表現の練習	(1時間)	
かたちの取り方・明暗を捉えながら粘土の抽象作品を描画する	(3時間)	本時

#### 6 本時の指導

##### (1) 授業の視点

構図のバランスを考えて、立体を平面に正確に描画できるようにする。

##### (2) 題材名 「 抽象のかたち 」 (4時間目)

##### (3) 本時の目標

- ・かたちを正確にとらえて描くことができる。

##### (4) 展開

過程	時配	学習内容と活動	教師の支援及び留意点	評価の規準
導入	5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>本時の目標</b>            かたちを正確にとらえて描くことができる         </div> ①スケッチブック、粘土作品、鉛筆を準備する。 ②友達粘土作品を見て、それぞれの作者の考えや、表現の仕方について学ぶ。	・道具の準備よりも2分前着席が達成できるよう意識させる。 ●粘土が壊れている生徒がいる。 ○ボンドを使って固定する。 ○鉛筆を尖らせる。 ・何名かの作品について、自分のテーマやねらいを語らせる。	(関) 友達の作品に関心を持って話を聞こうとする。  (構) 自分の作品とテーマを照らし合わせて、自らの構想を説明しようとする。

展開	40分	<p>①本時の目標を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かたちを正確にとらえて描くことを本時の目標として意識する。</li> </ul> <p>②描き方の手順を理解する。</p> <p>(I) 始めにおおまかなかたちで描く。全体をどのような大きさで画面に収めるかを把握する。</p> <p>(II) 全体を部分に分けて捉える。それぞれの部分の大きさの比率を意識する。</p> <p>(III) 細かく部分を描いていく。基準点と比較しながら高さや傾きを設定していく。</p> <p>③粘土の作品を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枠との間隔が2cmくらいになるように構図に気をつける。</li> <li>・始めはおおまかにとらえてだんだん細かい部分を描いていく。</li> <li>・薄く描き始めてかたちを探っていく。</li> </ul> <p>(IV) 早い生徒は明暗を付けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪郭が取れたら、全体を薄く灰色に塗る。</li> <li>・明るさの基準を決め、明るい部分を消しゴムで描く。</li> <li>・明るさをよく観察し、暗い部分を鉛筆で暗くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の目標を板書する。</li> <li>・蛍光灯を消し、光を一定に調整する。</li> <li>・黒い画用紙を敷かせて、明暗を見やすいようにする。</li> <li>●小さく描いてしまう。</li> <li>●最初から筆圧が濃くなってしまう。</li> <li>●輪郭線が強調されすぎてしまう。</li> <li>●対象を観察せずに描こうとする。</li> <li>○全体のバランスを最初に確認させる。</li> <li>○基準となる場所を意識し、見比べさせる。</li> <li>○後から修整して、徐々にかたちを整えていくことを意識させる。</li> <li>○対象をよく観察することを意識させる。</li> <li>○前回の練習の手順を思い出して取り組ませる。</li> </ul>	<p>(関) 制作に意欲をもって取り組もうとする。</p> <p>(技) 構図を考えてバランス良い配置を考える。</p> <p>(技) かたちを正確にとらえて描こうとする。</p> <p>(技) 対象をよく観察し、明暗を的確とらえて立体的に表現しようとする。</p>
まとめ	5分	<p>①班ごとに協力して片づけを行う。</p> <p>②本時の活動を振り返り、自己評価カードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返り。</li> <li>・今日の目標を達成できたか確認する。</li> <li>・次時の連絡。</li> </ul>	<p>(関) 自分の活動を振り返り次の学習に生かそうとする。</p>

(5) 評価

抽象表現に関心をもって学習に取り組もうとする。

【関心・意欲・態度】

作品とテーマを照らし合わせて、構想を練ることができる。

【発想・構想の能力】

構図を意識してバランスのよい配置を考えている。

【創造的な技能】

対象を観察してかたちを正確にとらえて描いている。

【創造的な技能】

対象をよく観察し、明暗をとらえて立体的に表わそうとする。

【創造的な技能】